

令和2年度

品川区立第二延山小学校  
校長 滝淵 正史



# 二延 学校だより

5月号

<http://school.cts.ne.jp/~enzan2>

## 学校再開のその先へ

校長 滝淵 正史

この原稿が皆さんのお手元に届くころには、学校再開への道が少しは見えてくるだろうかと少し期待をもちつつ、今回のコロナウイルス休校状況から、これからの学校教育について反省を含めて考えてみたいと思います。

学校は、児童が登校して、教室等で授業に参加したり友達といろいろな場面で関わりをもったりしながら様々な経験を重ねていくところです。今回の休校措置で、それが全く行えなくなり、改めて学校の存在意義を考える機会となりました。

多くの保護者の方からいただいた声は、「学校との関わり」を求める切なるものでした。「担任の先生との関わりをもたせたい」「学校からのメッセージがほしい」に始まり、「朝の会をオンラインでやってほしい」「オンライン授業はできないものか」など多岐にわたりました。

物理的にできないことが多く、「日本の学校のICT化の遅れは相当深刻」と個人的には思ったものの、本当に何とかしなくてはならないと感じているのは、学校と児童（保護者）との双方向のコミュニケーションについてです。休校中の学校からの連絡手段は「学校ホームページ」と「保護者用メール」、「電話」です。そして、家庭から学校への連絡手段は「電話」、使おうと思えば「学校（もしくは校長）へのメール」だけです。児童に学習課題を出した時に、その内容が分かったか、やり方で困っていることはないか、教員はとても気にかけていますが、反応を直接受けることができません。児童の立場で考えれば、「よく分からない」のに「先生に聞けない」状態です。児童が気安く学校に電話をかけるのは難しく、どうしても保護者の方のお力を借りする必要があります。簡単な疑問ならおうちで解決でもいいと思いますが、電話などで問合せいただくことも、関わりという意味からも有効だと思います。また、区教委には、一刻も早くオンラインで学校と家庭がつながる仕組みを整えてもらい、児童と直接質疑応答ができるようにすることが必要だと考えています。離れていても必要に応じて双方向のコミュニケーションをどうとるか、何よりそこが大切だと思いました。

実は、これは学校再開後も同じです。教室内で顔を合わせていればコミュニケーションがとれているか？違います。聞きたくても質問をしない（できない）児童がいます。学校（担任）は、一日も早くそれぞれの個性を把握し、集団の中であっても、それぞれの児童とその児童にふさわしい形で関わりをもつようにしなければなりません。児童との双方向の関係性を高める中で、それぞれの児童に応じたコミュニケーションの力を引き出し、身に付けさせていくことが、これからますます求められているのだと思います。

再開後の学校、多くのものが「例年通り」には進まないはずですが、多くのことを今までと変えながら、安全で充実した（このころ合いが大変難しい！）学校教育を目指すこととなります。わかり次第様々な情報をご提供します。ご意見などもいただきたいと考えています。（ここも双方向が大事！）

### ～今後の行事について～

今回の新型コロナウイルス対応の関係により、次の行事については今年度の中止が決定したと、区教育委員会より連絡がありました。大変残念ですがお知らせします。

日光林間学園（5年生）、日光移動教室（6年生）

次の行事は延期（日程未定）です。

各種健康診断は2学期に延期（身体計測は除く）

